



着ていただく方の気持ちを代弁したもののづくりをしたい。

山口真依

(商品企画、デザイン)

美術系の学校を卒業後、就職を考える中で、子供の頃の夢だったアパレルデザイナーを選んだという山口さん。入社1年目からデザイナーとしてほとんどすべての商品に関わっていますが、最初はアパレルの知識も少なく、上司や同僚、取引会社の方に多くのことを教わりながら学んでいったそうです。その際、「知らないことはある意味いいこと。固定概念に縛られない発想をどんどんしてほしい」と声をかけてもらえたことが、今でも山口さんのものづくりの励みになっているといいます。

現在は、自社のコンセプトやアイテムなどの分析を基に企画・デザインするだけでなく、チームの取りまとめ役として企画全体のディレクションも担っています。最近では、ユニフォームだけでなく、自社のオリジナル性を出すため、素材メーカーとのオリジナル生地との製作なども手掛けているそうです。「ユニフォームづくりは、着ていただく方の気持ちをいかに代弁できるかというのが重要な要素です。しかし、企業向けユニフォームのためマーケティングが難しい。幸い当社は女性社員が多いので、彼女たちも1人のユーザーとして捉えてヒアリングし、企画の参考にしています。」

製品を作るだけでなく、ブランドとしていかに認知度を上げるか、売上を伸ばせるか、という戦略も含めて、「社員一人ひとりが考えられることが仕事の面白さに繋がる」という山口さん。「大変なこともあります、それ以上にやりがいを感じています。販売数量などの成功を、みんなで分かち合えるのも嬉しいです。これからもジョアらしい新たな商品企画に挑戦していきたいですね。」



もっと生の声

Q & A

—— この会社で働く魅力は何ですか？

大きな会社ではないので、意思決定がとても速いところです。こういうのをやってみたい!という思いがあれば、全員が平等に提案できます。むしろどんどんそういうアイデアを出しましょう!という社風です。若い社員でもアイデアが良ければ採用されるので、他の社員の力を借りながら形になったものも数多くあります。

—— 最近手掛けた商品を教えてください。

「ストレスフリーシリーズ」という働く女性のストレスを軽減させるシリーズを企画しました。ウエストストレッチのあるボトムスや、腕の上げ下げがしやすいトップス、シワにならず家庭洗濯できるジャケットなど、制服に対するストレスをいかに軽減させるかを考えながら企画したのですが、お客さまには大変ご好評いただいています。自分自身も働く女性の一人として感じていたストレスをダイレクトに商品化へ生かすことができ、リアリティあるものづくりができたと思っています。

—— 今後目指していることはありますか？

これからはそれぞれが持った技術やスキルをいかに掛け算して新しいモノづくりを発展させることが出来るのか、ということがより求められていきます。繊維産業はどんなに突き詰めても終わりがなく、深掘りしながら新しい発見ができる業界です。色々な角度でマーケティングし、自分の強みをいかしつつ、時代に沿った新たなデザインで、繊維業界を盛り上げていきたいです。

